

2020年活動スローガン「バングラデシュ支援35年 愛の輪 令和に続け」

報 告

2019年10月～12月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

- ・占いの館「千里眼」様よりカパシア郡の3つの学校へトイレを3基
- ・尼崎市立塚口中学校生徒会様よりカパシア郡の学校へトイレ1基
- ・会員有志の方々よりカパシア郡の3つの学校へトイレを3基

●その他の寄付

- ・「第47回大田区生活展」様よりカパシア郡の学校へ机とイス20セット
- ・甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様よりカパシア郡の6つの学校に机とイス各10セット
- ・伊丹市立荒牧中学校様よりカパシア郡の学校へ図書100冊
- ・尼崎市立塚口中学校生徒会様よりカパシア郡の学校へ図書200冊

●アイキャンブ

11月、エンゼルホーム内の診療所で佐賀県の医療NPO法人「POSA」の医師らによってアイキャンブが行われ、96名の白内障患者の手術が行われました。



〈シエラレオネ〉

- ・12月に宣教クララ修道会のシスター吉田を通じてシエラレオネへの支援として10万円を寄付。

〈国内活動〉

- ・12月にさいたまのJR浦和駅前、大阪のJR天王寺駅前街頭基金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。

イベント情報

4/8
(水)

春のチャリティバザー

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）
時間：10:00～14:00



お知らせ

会員総会 3月10日(火) 13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますので、ご出席下さいますようお願いいたします。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いいたします。

会員数：一般会員 695名
DCEF会員 707名
(1月1日現在)

編集後記

昨年は「平成」が終わり、新しい時代「令和」が始まりました。振り返ると様々な出来事がありましたが、私はラグビーワールドカップが一番印象に残っています。みんなで一つのボールをつなげる姿に日本中が感動しました。私達のバングラデシュでの活動も35周年を迎えます。みんなでつないだ支援の輪をこれからも落とすことなくつないでいきたいと思っています。

2020年 行事予定

1月現在

1月	25日(土)～2月1日(土)	スタディツアー	バングラデシュ
4月	8日(水)	春のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター 伊丹市
	15日(水)～25日(土)	スタディツアー	バングラデシュ・ブータン
6月	7日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター 伊丹市
8月	17日(月)～24日(月)	ファミリーツアー	バングラデシュ 伊丹市
9月	20日(日)	チャリティコンサート	アイフォニックホール 伊丹市
10月	21日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター 伊丹市
11月	18日(水)～26日(木)	バングラデシュ支援35周年記念ツアー	バングラデシュ

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEW

通巻190号
2020.01

謹賀新年



ボランティアセンターにて

新年おめでとうございます。

昨年は年号も新しくなり変化の多い年でもありました。ボランティアの人達で「Let's go!! 広げよう ボランティアの心を」をスローガンにして頑張った一年でした。新しくボランティアをしてくださる方も増えましたし、また嬉しいことにいくつかの学校の生徒会の人達や大学生の人達がボランティアセンターに話を聞きに来られ、バングラデシュにトイレや図書など募金をして寄付していただきました。

金額の大小でなく途上国の人達に何かしたいと思ってくださり、そしてそれに協力しようとする学生さん達が増えることはとても嬉しいことです。「世界の子ども達に夢と希望を」と活動している私達にとって日本の子ども達の善意の橋渡しができることは私達の願いでもあります。

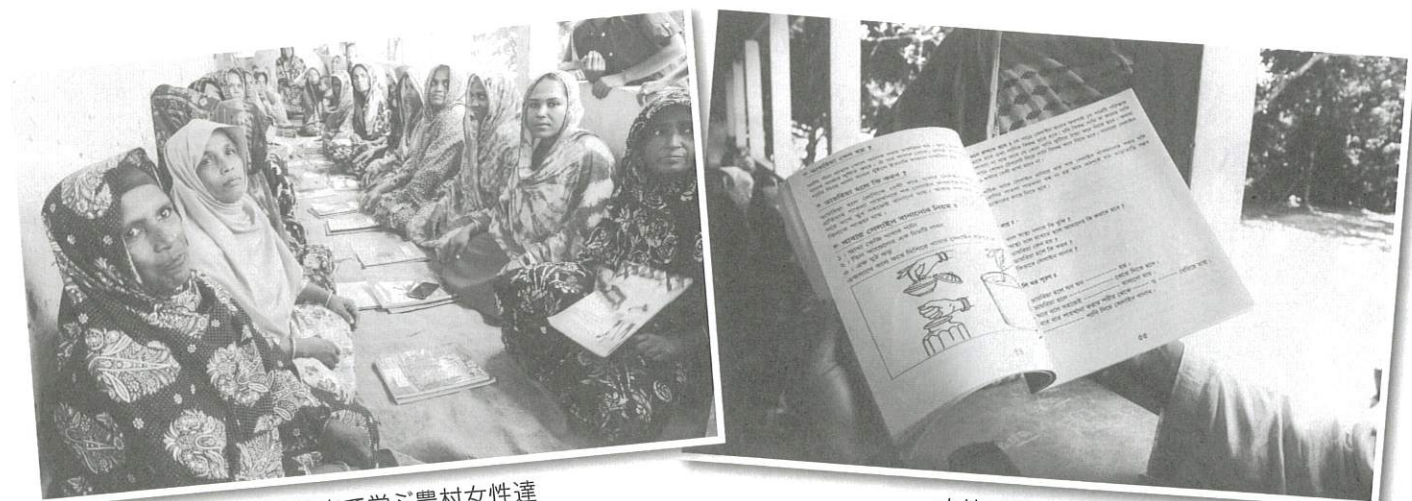
今年はもっともっとボランティアをして下さる仲間が増えて欲しいと思っています。人の本当の喜びは自分が誰かの役に立っていると感じた時、人に喜ばれた時ではないでしょうか。今年もどうぞご支援ご協力お願いいたします。

代表理事 東村 真理子

～バングラデシュプロジェクト紹介～ 識字教室 (Woman Education Program)

バングラデシュでは15歳以上の成人の識字率が約72%と徐々に上がってきていますが、65歳以上の識字率は約41%とまだまだ低いのが現状で、女性に限ると更に低くなります。

国際エンゼル協会では教育を受ける機会を奪われてきた農村女性を対象に識字教室を1995年より開設し、文字の読み書きや生活に必要な基礎知識の学習を行っています。当協会独自の教科書を使い、1クラス30名、6ヵ月間の教室を6か所で聞き、年間で計360名の女性が卒業します。



識字教室で学ぶ農村女性達

本協会独自の教科書
(経口補水液の作り方など生活に役立つことが載っています)

識字教室では、カパシアの田舎で現地の女性が6ヶ月間『読み書き、計算、保健衛生』などの日常生活に必要な事を学んでいます。小さい頃に貧しくて学校に通う事ができなかった彼女達は、若い日に戻るように喜んで勉強しています。

「出稼ぎの夫からの手紙を読めるようになった。自分で書いて送ることもできる」「バスも行き先が分かるようになったので自分で行ける」「サインをする時に名前が書けなくて指紋を押すしかなかったけれど、今ではそんな恥ずかしい思いをしなくていい」「子どもの勉強を見てやれるし、子どもにも勉強を続けさせてやりたい」そんな声を聞いたたびにこのプロジェクトの大切さを感じます。

本協会独自の教科書には、子どもが病気になった時の対処法や万一家庭内DVに遭った場合の対応などがイラストでわかりやすく盛り込まれています。また、自ら読み書きできることの大切さを知ることで、子ども達を学校へ行かせようという意識を持つようになります。教育の成果はすぐに結果が出るものではありませんが、自信を持っていきいきと生きる女性が増えることで社会は確実に変わっていくでしょう。

この識字教室のプロジェクトを継続していくためには、年間約100万円の経費がかかっています。物価の高騰、識字教室の先生の給与なども年々上がっており、今後も同じ規模で継続していくことが難しくなっています。どうか識字教室継続のためのご協力をお願いします。ご寄付の際に「識字教室の支援に使ってください」と伝えていただければこの活動のために使わせていただきます。どうぞよろしくお願いします。



皆さん、応援してください



バングラデシュの学校は1月から始まり12月で終わります。小学校は5年、中学校5年、高校2年、大学4年です。そして中学校卒業時には全国統一卒業試験(SSC試験)が行われます。この試験の結果は子ども達が受験できる高校を選ぶ上で重要になるだけでなく、社会人になる時の履歴書にも記載される、人生を左右する重要な試験となっています。

今年の2月にはエンゼルホームの子どもの内、14名が受験する事になっています。それぞれ得意不得意はありますが、一生懸命勉強に励んでいます。皆さん是非彼らの試験の健闘を応援してください。



ジャヒッド君

得意科目：数学
将来の夢：医者



アマンウッラ君

得意科目：物理学
将来の夢：国防軍



マザル君

得意科目：化学
将来の夢：エンジニア



イスマイル君

得意科目：地理
将来の夢：エンジニア



アリフル君

得意科目：数学
将来の夢：教師



ナイマちゃん

得意科目：化学
将来の夢：看護師



リマちゃん

得意科目：会計学
将来の夢：会計士



ナディアちゃん

得意科目：生物学
将来の夢：医者



オノンナちゃん

得意科目：生物学
将来の夢：看護師



モウシュミちゃん

得意科目：国語
将来の夢：医者



モニシャちゃん

得意科目：物理学
将来の夢：医者



ソルナちゃん

得意科目：歴史
将来の夢：弁護士



アリファちゃん

得意科目：経営学
将来の夢：会計検査官



シマちゃん

得意科目：会計学
将来の夢：銀行員

バングラデシュの学校制度

小学校	1～5年生 (義務教育)	PEC試験(5年生)
中学校	6～10年生	JSC試験(8年生) SSC試験(10年生)
高等学校	2年間	HSC試験(2年生)
大学	4年間	

図書館を寄付

バングラデシュの子ども達に本を

私の孫娘、朝田花(花ちゃん)は先天的な難病プラダ―ウィーリー症候群です。小さな頃は筋力がなく泣くこともなく、ミルクも鼻からチューブで与えていました。歩行も難しくいろいろな問題を抱えていました。しかしたくさんの優しい方々に恵まれ、学校大好き、先生大好き、友達大好き、そして本が大好きで毎日たくさんの本を読んでいた。

私は2009年に何度目かのバングラデシュに訪問する機会に恵まれ、ある農村を訪れました。そこは学校にも村にも図書館がありませんでした。そして家の手伝いのため学校も行けない子ども達が大勢いました。その時私は、ふと花ちゃんのことを思い出しました。日本の学校には図書室があり、町には図書館もあります。本屋さんもたくさんあります。しかしバングラデシュの子ども達は勉強したくても身近に本を手にもすることもできません。一方花ちゃんはたくさんの本に囲まれ育ってきました。花ちゃんがたくさんの方々に助けられ、家族皆が幸せに暮らしていることに改めて感謝の気持ちが湧きました。この感謝の気持ちを形で表したいと思い図書館を寄付させていただくことにしました。



朝田花さんとバングラデシュ
責任者アジズル・パリ氏

そして、子ども達にたくさんの本との出会いがありますようにと願い、応援して下さる友人達と共に「花ちゃん図書」と名付けて本を寄付し続け、今年で10年になります。花ちゃんは多少頑ななところはあるものの明るく前向きの頑張り屋さんです。彼女の笑顔で周りの人は元気をもらっています。きっとこれからも周りを幸せな気持ちにさせてくれることでしょう。私も「花ちゃん図書」を通じてこれからも世界の子ども達を笑顔にしていきたいと思います。

朝田 美美



図書館建設(2010年)



花ちゃん、本をありがとう。
農村の小学校に図書を寄付
本を読む機会が増え喜ぶ子ども達

小さな一歩から多くの子ども達に笑顔を

手作りリボンで トイレを寄付したい!

2019年8月にバングラデシュのファミリーツアーに参加した木下明砂(めいさ)ちゃん(小5)。バングラデシュで自分と同じくらいの年齢の子ども達がレンガ工場で過酷な環境の中働いている様子をテレビで観て、自分も何か支援できないかと考え参加しようと思ったそうです。そして現地の学校でトイレが足りない様子を見て、手作りのリボンを作ってその売り上げでトイレを寄付したいとがんばっています。



明砂ちゃん感想文

この夏、バングラデシュのファミリーツアーに参加させていただいた木下明砂です。私は5歳の時に、バングラデシュの子どもがひどい場所で働いているドキュメンタリー番組を観ました。小学校高学年くらいの女の子が学校も行けず、1日千個レンガを運んで100円くらいでした。1日たくさん働いて、私が好きなパン1つも買えないことにびっくりしました。それを観てから、何か貧しい国の人の役に立てないかなとヘアリボンをフリマなどで売ってお金を少しずつ貯めています。近所の美容室やお友達も協力してくれました。そして、バングラデシュに一度見に行こうとお母さんと一緒に国際エンゼル協会のファミリーツアーに参加しました。

エンゼルホームの子ども達とすぐに仲良くなりました。運動会もとてもおもしろかったです。竹とトタンで作った学校にも行きました。床は土のままで、机もボロボロでした。学校にトイレがないところもたくさんあると聞きました。女の子ははずかしくて、外でトイレができないそうです。だから、学校にトイレと井戸を作ってあげたいです。目標を達成したら、もう一度バングラデシュに行ってちゃんとトイレと井戸ができているか確かめたいです。そしてバングラデシュで仲良しになった友達とまたいっしょに遊びたいです。友達は夏休みにハワイやグアムで最初はうらやましかったけど、バングラデシュの旅はハワイより楽しかったです。

木下 明砂



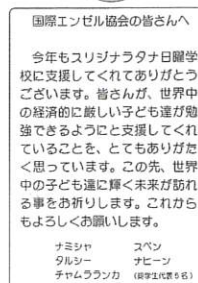
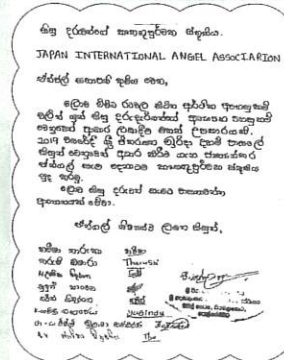
日本の子ども達から バングラデシュの 子ども達へ ボールペンを



大阪市鶴見区の学習塾「幸進学院」より毎月皆勤した生徒の数だけボールペンをバングラデシュの子ども達へいただくことになりました。「自分達が頑張って勉強することで、遠く離れた海外の子ども達の勉強も応援できる」世界の子供達が繋がっていることを感じる支援をいただきました。小さな支援が集まり、大きな力となる事を願っています。

スリランカより

毎年奨学金を届けているスリランカのスリジナラタナ日曜学校の子供達からお礼の手紙が届きました。相手のことを思って丁寧に書いてくれる手紙に、皆様の支援への感謝の思いが伝わってきました。この他にもたくさんのお手紙をいただいています。これからもスリランカの子供達の応援をしていきます。



～ バングラデシュ35周年を迎えて～



東村眞理子代表と現地責任者アジズバリ氏の対談

私達のバングラデシュでの活動も今年で35周年を迎えました。首都ダッカの小さなアパートの一室から始まったエンゼルホームは、今ではたくさんの緑に囲まれた中にあり、35年間で130人を超えるたくさんの子ども達を社会に送りだしました。また女性の支援やクリニック、奨学生支援、プライベートスクール運営とプロジェクトも大きく広がりました。昨年はより多くの方に本協会の活動を知って頂くための紹介ビデオも作成しました。その時撮影された東村眞理子代表と現地責任者アジズバリ氏の対談を紹介します。

東村眞理子代表(以下代表)

このエンゼルホームができた当初、周りは自然に囲まれた静かなところでしたね。

代表

そして、子ども達が自分達で掃除し、このきれいな素晴らしい環境を維持している事がとても素晴らしいことだと思います。

代表

ここで育った子ども達もずいぶん増え大きな家族になりましたね。そしてみんなが幸せに暮らしているのをボランティアの人達も母も喜んでいると思います。

代表

子どもを育てることに終わりはありませんね。これからも日本とバングラデシュが一つになって、未来ある子ども達の成長を支えていきましょう。

現地責任者アジズバリ氏(以下バリ氏)

そうですね。今では工場がたくさんできて賑やかになりましたが、このエンゼルホームの中は今も昔と変わらず自然豊かなままです。

バリ氏

川村さんはいつも子ども達に身の回りをきれいにすること。そして一生懸命勉強するように話しておられました。

バリ氏

はい、この35年で130人以上の子ども達が社会に巣立っていき、皆幸せに暮らしています。これも日本の皆様のご支援のおかげです。本当にバングラデシュの子ども達を支えてくださりありがとうございます。



これからも国際エンゼル協会へのご支援ご協力よろしくお願いします

DCEFだより

奨学生からの便り — バングラデシュ



皆さんこんにちは、私はアイシャと言います。私は5年生の時に父を亡くしました。それから経済的には厳しくなりましたが、家族の協力もありなんとかSSC試験合格するまで学校に通い続けることができました。

そして看護学校に合格し、看護師になる勉強をすることになった時に国際エンゼル協会の奨学金と出会いました。皆様からはお金だけでなく、私の心も支援していただいています。勉強でくじけそうになった時も、たくさんの方から応援していただいていると思うと「負けないでがんばろう」とやる気が湧いてきました。

私は人のために何かしたいと思っています。学校を卒業したら病院で働き、苦しんでいる人達の助けになりたいです。そして、ゆくゆくは看護学校の先生になり、同じ志を持つ若者をたくさん育てていきたいです。皆さんの応援がありここまで来れましたことをいつも感謝しています。ありがとうございます。



アイシャ
(ムンシガンジュ看護学校2年)

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

No 34

エンゼルホームの子ども紹介
アリフル君
Ariful Chowdhury
(17才)



◎アリフル君にいろいろ質問をしました

- Q 一番好きな科目は …… 数学
- Q 一番楽しい時は …… エンゼルホームのみんなと遊んでいる時
- Q 将来の夢は …… 学校の先生
- Q 人生で大切なことは …… 夢を実現するため一日一日を大切に生きる
- Q 日本について知っていること …… 争い事が少なく平和で山や川が美しい国